

平成27年度 青果物輸出特別支援事業(平成28年度実施)に係る海外フロンティア市場販売促進の支援報告書

平成28年11月25日

農林水産省

生産局長 殿

平成27年度補正における青果物輸出特別支援事業に係る海外フロンティア市場販売促進活動について、下記のとおり報告いたします。

- 対象国・地域 : ロシア連邦
実施期間 : 平成28年11月15日
(活動に係る出張 : 平成28年11月13日～11月17日)



「天皇誕生日祝賀レセプション」

1. 『天皇誕生日祝賀レセプション』について

- (1)開催日 : 2016年11月15日(火)
- (2)場所 : 在ロシア日本大使館 大ホール
- (3)出席者 : モスクワ駐在各国大使館職員を中心に約500名
- (4)内容 : 年に一度のナショナル・デーとして「天皇誕生日祝賀レセプション」を上月全権大使の主催で開催し、各国大使館を中心に、ロシアの著名人、政府、議会、企業、マスコミほか、現地の日系企業の職員を参集し、その会場で日本の各企業、産地が出展を行い、日本産の食品・製品のPRをした。
- (5)輸出スケジュール : 航空便① 1110ETAモスクワ

出展品目

品目	銘柄
梨	にっこり
フルーツソース	とちおとめ
加工品	冷凍スカイベリー
いちご	とちおとめ

2. 天皇誕生日祝賀レセプション活動実施内容について

(1)日時 : 11月15日(火) 18時30分～22時

(2)場所 : 在ロシア日本大使館大ホール

(3)出席者 : JA全農とちぎ 運営委員会副会長 大島 幸雄
" 副本部長 池田 佳正
" 事務局 江連 一裕・舩生 和孝・関谷 教夫

(4)内容 : 【天皇誕生日祝賀レセプション】

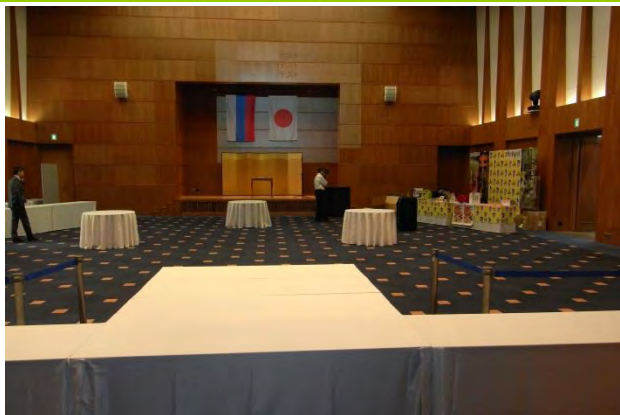
日本大使館は、モスクワ グロホリスキー通り27番地に立地し、地上5階地下1階の広大な家屋、敷地を持つ。他国に比べ武装警備が難しいため、構造的に安全を確保しているとの事であった。

レセプションは大使館2階の多目的ホール、ロビー、小ホールを使用して開催された。来場者は約500名で、主にはモスクワ駐在の各国大使館関係者であるが、今年度は上月大使の意向で駐在の在日日本企業の関係者も招かれている(今回が初の試みとの事。また会場の関係で各社1名限定の招待であった)

本会、山口県の他には、宮城県、養殖魚協会が出展していた。今回食材、特に青果での出展を実施した本会ブースに関心が集まり、さらにはレセプション自体の盛り上がりにも大きく寄与したものと思われる。

多くの来場者がブースに立ち寄り、にっこり・いちごの試食もいただいた。大島副会長はとちおとめ・スカイベリーの試食提案を積極的にしていただき、大変な盛況ぶりとなった。試食する来場者の多くが、にっこり、いちごの香りを必ず嗅いでいたのが印象的であったが、栃木ブースが入口のすぐ脇にあったため、入場した際にいちごの強い香りを受けて興味を持っていただけただけである。またロシアでは香りや味の強い果実が無いいため、にっこり・とちおとめの味やとちおとめの香りに興味をそそられたものと思われる。冷凍スカイベリーについても大きさにひとしきり驚く人が多く、アイスクリームを好む国民性からか、凍ったままかじりつく人が続出した。

とちほのかは俵むすびにして提供したが、こちらも高い関心を示して試食される方が多かった。特にジャポニカ米はモスクワでは珍しいようで、持ち帰りを希望する人も出た。中央アジアの影響から焼き飯を食べる習慣のある国民も多いようで、東南アジアに比べて米への関心度が高い印象を強くした。



会場全体図(右奥が栃木ブース)



ブースイメージ



試食等展示(いちご)



試食等展示(にっこり・とちほのか)



副会長自ら率先してのPR





まずは香りを嗅ぐ人が多い



お米も盛況



大人気のにっこり



大きさに関心し、記念撮影する一幕



ブースの他、レセプションメニューにも採用いただきました



開会から閉会まで来客が途切れませんでした

3. 所感

今回の天皇誕生日レセプションに来場いただいた方には、本県産青果物はことのほか好評をいただいたが、会場に来ているのはロシア政府の関係者や各国大使館関係者であり、実際のモスクワ市民の反応が気になるところである。

大使館そばの量販スーパーの売り場を視察したところ、主食のパン売り場が充実しており白パンか黒パンの品ぞろえが豊富。白パンよりも黒パンの方が売価は高めであった。肉売り場は基本量り売りであり、店員に商品と量を伝え、肉を切って袋に詰めてくれるが、パック売りの商品も充実している。

青果物については基本的に全て量り売りであり、ビニール袋に詰めて、自分で量りに乗せてボタンを押すとバーコード付きのシールが出るのでそれを張って精算となる。ジャガイモや玉ねぎなど食の中心になる品目は極めて安価に設定されている。キャベツは1キロ40円、じゃがいも・たまねぎは1キロ30円程度であった。

ロシアでは低所得層への食糧供給のため、政府が価格を統制する命令を発令することがあり、これらの食品は高く売ろうとすると摘発の対象となる場合もあるとの事であった。

外資系庶民派デパート及び高級デパートの売り場も品ぞろえは豊富である。各品目共、低価格品～高価格まで数種類の階級が豊富に販売されており、客層のすみわけはかなりはっきりしている様子である。訪問時は平日にも関わらず客入りはますますであった。国内の景気も上向き傾向である事が伺えた。

5. 成果および今後の進め方

(1) 出展の成果

- 実際にロシアを訪問するのは初めてであり、現地の情勢をつぶさに見ることができた。
- 大使館員など限られた来客ではあったが、日本産に対する期待感、信頼感にはっきりと感じられた。また日本産青果物の認知度向上や物流面での課題も洗い出せた。

(2) 今後の進め方

- 栃木県は放射線規制区域であり、事前の検査、証明書発行が大きな障壁となっている。今後の状況の推移を確認するとともに、物流面でのルート構築等を検討する。